

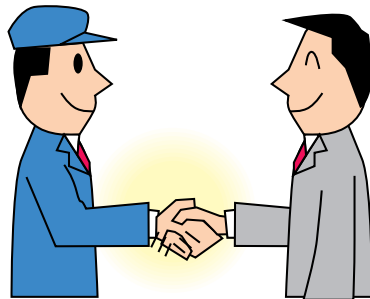


一歩一歩、着実に
まちづくりを進めています…

◆折尾駅周辺連続立体交差事業について

◎実施協定を締結しました!!

平成17年4月15日に事業施行者である「北九州市」と鉄道事業者である「九州旅客鉄道株式会社」との間で基本協定を締結し、この基本協定に基づいて今年度の実施協定を平成17年7月29日に締結しました。平成17年度は、西折尾地区のトンネル部及び国道3号の交差点所付近の測量設計等から着手していくこととしています。今後、作業状況等をお知らせ致しますので、よろしくご協力ください。

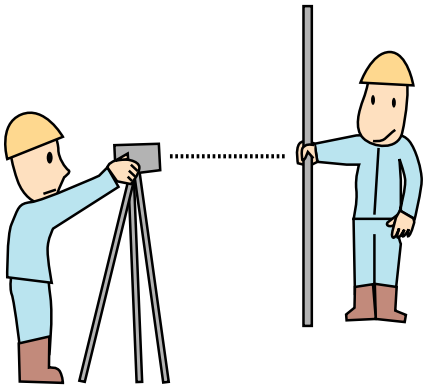


◆折尾駅周辺街路事業について

◎測量等の実施状況をお知らせいたします!!

現在、今年の2月に事業認可を受けた箇所土地の境界確認等を実施しています。

①日吉台光明線、乙丸折尾線、折尾中間線については、現在、土地の境界確認とそれに伴う測量を行っています。
②折尾南北線についても、同様に土地の境界確認とそれに伴う測量を行っています。



◎事業認可を申請中です!!

現在、日吉台光明線（折尾隧道付近）の事業認可を福岡県知事に申請しています。測量等の日程が決まりましたら、お知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。

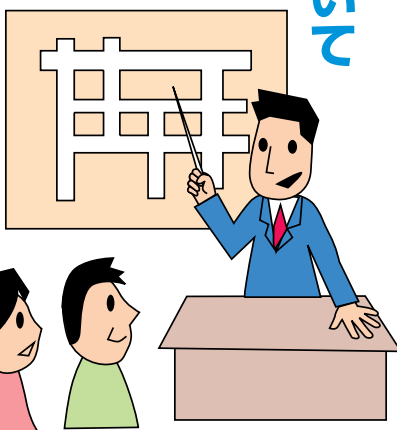
◎日吉台光明線の設計業者が決まりました。

日吉台光明線等の設計業務委託
委託業者 株式会社福山コンサルタント
委託内容 日吉台光明線等の設計

◆折尾土地区画整理事業について

◎事業計画(案)を修正しました!!

平成17年2月から行った「戸別訪問」の中で事業計画(案)に対するご意見などを頂きました。頂いた意見を基に事業計画(案)を修正しましたので、再度、戸別訪問等を行います。事業計画(案)の修正箇所の説明と併せて、ブロックごとの大まかな事業着手時期などの説明を行う予定です。
説明等にお伺いいたしますので、ご協力よろしくお願いいたします。



◆説明に伺います!!

「折尾地区総合整備事業」について、疑問や質問等がございましたらご連絡ください。

個別、小グループ、学校、会社等でも結構です。

ご都合のよい日時をお知らせいただければ、説明に伺います。

なお、日時の調整をさせていただく場合もございますので、予めご了承ください。

堀川の歴史を見つめ

折尾近辺の
おもしろ探検

魅力を探る

文化元年に全線が開通し、昨年で200年を迎えた堀川運河。時代の盛衰を映してきた川面は、今、静かなたたずまいをみせながら街の風景にとけ込んでいます。そしてこの川がいつまでも愛される川であるよう、地域ではさまざまな活動が行われています。



1 大正初期、折尾駅のすぐ近くでこんな風景が見られました
2 折尾高校近くの風景。ミニ溪谷ともいわれる
3 現在の折尾駅近くの風景
4 (堀川・車返の切り通しあたり) 川の側壁に人の手で掘られたことを物語るノミの跡が見られます
5 (川ひらた) 「車返しの切り通し」近くの県立折尾高校中庭に保存されています
◎川ひらたの特徴
1. 船底がひらたい
2. 喫水(きつすい)が浅い
※喫水…船の水中部分と水上部分との境界
3. へりが幅広い
6 JR折尾駅近くの橋の欄干に、ひとつひとつ風車を取り付けて
7 風を受け力強く回る色とりどりの風車

テーマはMOTTAINAI (もったいない) ペットボトルで風車をつくろう！

堀川を飾る風車づくりが行われると聞き、則松市民センターの夏休み寺子屋教室におじゃましました。約60人の小学生と、地域や中学生ボランティアなど、合わせておよそ100人が参加。説明を聞きながら、はさみやビニールテープを使って根気よく細かな作業を続ける姿は、みんな真剣そのもの。やがて見慣れたペットボトルはカラフルな風車へと変身しました。

「捨てられるペットボトルを使うことで、子どもたちが環境を考えるきっかけになればいいですね」とセンター職員の是此



▲地域ボランティアが手伝ってもらいながら、風車づくりに励む小学生
◀ 則松市民センター職員のは此田さん



田(これこだ)さん。風車が飾られるのは10月1日から約10日間。市民センターの他、地域の4つの小学校でも風車づくりが行われ、今年は1200から1300個の風車が街を彩ってくれます。
▲風車の作り方を説明する若松コスモス会のメンバー

江戸時代に築かれた全長12kmの運河 洞海湾まで石炭を運んだ「川ひらた」

堀川は遠賀川から分かれ、八幡西区楠橋、中間市、水巻町を通り、再び八幡西区の折尾に続き、さらに洞海湾にそそぐ全長12kmの運河です。

昔から遠賀川の氾濫により水害に見舞われることが多かったため、福岡藩主黒田長政の命により元和7年(1621)に工事が始められ、183年という長い年月をかけ文化元年(1804)に完成。江戸期より物資輸送の重要なルート

として用いられました。そして、明治期以降は筑豊炭田を背景に『川ひらた』(五平太舟)が石炭を輸送。明治32年頃の全盛期には、1日に600艘もの舟が行き来し、洞海湾まで石炭を運んだそうです。

堀川を見直し みんなで川を彩る 『堀川くるくる風車隊』

折尾界隈の景観にとってなくてはならない存在の堀川を見直そうと、平成13年に北九州市と中間市、水巻町が合同でシンポジウムを開催。また翌年からは、地域の人たちの手に

よっていつせい清掃が行われるなど、さまざまなかたちで川との関わりを深めています。

「昨年は初めて約700個のペットボトル風車を堀川に飾りました。今年は『堀川くるくる風車隊』と銘打ち、約1200個の風車を飾る予定です。多くの方に見てもらい、地域のみんなに愛される川になればと思っています」(八幡西区役所まちづくり推進課・小笠原さん)。いつもは何気なく通り過ぎる風景の中には、様々な歴史や多くの人の思いが息づいているのだと、これからはそんなことも考えながら、街を歩いてみるのも楽しいかもしれませんね。